

野外体験教育プロジェクトの報告

大河原清*

(2004年2月5日受理)

平成15年度に、「1竹馬・竹トンボ作り」、「2姫神山登山」、「3藤沢町キリシタン殉教遺跡見学のための下見」を実施した。いずれも、文部科学省フレンドシップ事業の一環である。

「1竹馬・竹トンボ作り」は、平成15年05月17日(土)9:00~15:00に実施した。岩手大学教育学部技術教育木材加工実習室にて、教育学部生12名、教官2名、上田・厨川小学生20名が参加した。

竹馬・竹とんぼ作りでは、一日かかりで一对の竹馬づくりがやっとであった。途中雨が降り出し、戸外での作業が難しくなったこともあり、全員での完成後の竹馬競争まではすすめなかった。

竹馬作りは学生も初めての体験であり、児童・生徒に指導する前に授業時間を利用して、実際に竹の切り方、支え部分のナタでの溝加工、ガスによる足場となる曲げ加工の実習をし、さらに部材をあらかじめ寸法に合わせて切り出すなどの準備をしていたが、実際の作成では大変苦勞していた。

「2姫神山登山」は、平成15年08月05日(火)7:00~17:00に実施した。姫神山は岩手県玉山村にある標高1123.8mの山である。岩手大学教育学部生16名、教官2名(うち1名は埼玉大学から参加)、盛岡市内小学生37名、父兄2名、盛岡市在住の登山経験者2名(補助指導員として)が参加した。

姫神山登山は、登山当日早朝雨天にもかかわらず、午後からは快晴となり、頂上に着いた頃から下界の展望が開け、参加者はすがすがしい気分を味わうことができた。事前に「登山のしおり」を作成し配付し読んでもらっていた。しかし、しおりに掲載していた植物や鉱物の直接観察には至らなかった。今後の課題である。

姫神山登山は、後日実践センター主催のシンポジウムにおいて出席した父兄から、子どもの教育に役立っていると感謝の言葉を頂いた。遊びを脱して、学ぶ仕掛けを組み入れ、今後はより一層充実した野外体験活動を実施したい。

前年までの実施の反省から、小学校に直接出向きチラシを配り募集することで、参加者を確保できるようになった。今回から、「総合的な学習の時間」とのかかわりで、評価項目を設定し、評価を試みた。登山に伴う他人との協力や協調性は極めて良い結果が得られたが、「登山のしおり」に列挙した植物・鉱物などの直接確認は不可能であり、今後の指導のあり方で反省点となった。頂上の固い岩の残骸などから姫神山の造成を問うなど、次年度に向けて、どのような問いを發するかといった指導上の問いの工夫にむけて改善を図ることとした。

「3藤沢町キリシタン殉教遺跡見学のための下見」は、平成15年12月18日8:00~19:00に実施した。当初の計画では小学生を統導しての実施見学を予定していたが、見学の目的をはじめ、どの箇所を見学すべきか等、十分に事前調査が進まなかったため、下見となったのである。

下見は、岩手県藤沢町大籠キリシタン資料館を中心に、近辺にある遺跡を見てきた。岩手大学教育学部生2名(院生による自主下見3名は11月に実施済)、教官1名、名誉教授1名が参加した。今回

*岩手大学教育学部

の下見の目的は、実際に児童・生徒を引率するための事前下見である。地形的に車が入れない、冬期間は雪のため遺跡を十分観察できない、また寒さのため防寒が必要など、次年度の5、6月に延期する必要を感じた。また大学から藤沢町は往復約300kmあり、1日での実施に集合・解散時間を含めて検討の余地があることが分かった。

15年度の関連授業では、学生と大籠地区のキリシタン殉教に関する歴史資料の読み合わせを実施し、児童・生徒を統導する場合の指導内容と方法について検討を重ねてきた。